

取り組みが広がってほしい



H16~18・久慈保健所職員(現・県立大学職員) 加藤 肇 主査

平成16年度から3年間、久慈保健所に勤務しました。病院や消防署から、救急現場の実態を見聞きするうちに、自分も何かしなければと考えるようになりまし。継続的に教え、子どもたちへの意識づけができるように

と取り組んだのがこの事業です。各機関が協力し、地域全体で取り組めたことが成功の要因だと思います。子どもたちが心肺蘇生法を習い、次の世代につなげていく取り組みが他の地域にも広がってほしいです。

仕掛け人の情熱

全国で高い評価を受けた医療・消防・保健・教育機関の連携事業。普及に情熱を注ぎ、事業を仕掛けた4人に今の思いを聞きました

学校とまちの安全高めるため



県北教育事務所 菊地 理 教務課長

全国で年間100件発生しているといわれる校内での児童・生徒の突然死。久慈管内でも起きたことがあり、対策が必要でした。心肺蘇生法の普及事業は学校での安全を高め、誰もが助け合えるまちを目指す

ために始めました。続けられているのは各教育長、各学校長の理解と、指導する先生の熱意のおかげです。子どもたちにとっては命の大切さを学ぶ機会にもなっています。今後も工夫を重ねながら続けていきたいです。

呼び掛けはわたしの使命



しりと内科循環器科クリニック 白戸隆洋 院長

突然死の約55%は心筋梗塞などの心臓疾患です。しかしその患者の半数は、病院到着前に亡くなってしま。このような場面に直面し、何度も悔しい思いをしてきました。倒れた直後の行動が、命のために必要だと呼び掛け

ることが、わたしの使命だと感じています。関係機関の協力で、学校をはじめ家庭や地域にも理解が広がってきました。誰かが行動すれば助かる命があります。今後さらに広めていきたいです。

できる人増えれば助かる命も



久慈消防署 久慈剛史 警防救急係長

まちの安全・安心や命に関することは、消防だけでは限界があります。「周りの協力があれば助けられたかもしれない」と悔しい思いをしたこともあります。教育機関と先生の協力によって、小学5年生から高

校3年生までが、心肺蘇生法や命の大切さを繰り返し学ぶ環境ができました。誰かが倒れたとき、適切な処置をできる人が増えることで、助かる可能性は高まります。この普及事業が県内外にも広がってほしいです。



7月7日、授業で心肺蘇生法を学んだ宇部小5・6年生。何度も手順を確認しました

命綱の握り方

子どもたちは知っています

高評価久慈の事業

5月21日、全国消防協会が主催する平成21年度「消防機器の改良・開発および消防に関する論文」会長表彰で、久慈管内で取り組んでいる心肺蘇生法の普及事業をまとめた論文が優賞に選ばれました。今回、受賞したのは全国で4つのみ。久慈の事業が全国で高い評価を受けました。

児童・生徒に普及

久慈管内では平成17年度から、消防・医療・保健・教育機関が連携して児童・生徒へのAEDと心肺蘇生法の普及事業を進めています。これはAEDと心肺蘇生法の学習を学校の授業などに組み込み、子どもたちへの普及を目指す事業で、全国的にも例がありません。対象となる小学校5年生から高校3年生は最大8年間学習、AEDと心肺蘇生法を身に付けます。学校で教えるのは教職員です。講習会で消防署員や医師から手順と必要性を学び、児童・生徒に指導しています。本年度は5月27日に講習会

を開催。久慈管内小・中学校の教職員48人が、約6時間掛けて、AEDと心肺蘇生法を学びました。意識と知識が浸透

市内小・中学校では6月末から心肺蘇生法の授業が始まりました。各学校で、児童・生徒が命を救うための手順を真剣に学んでいます。普及事業で学ぶ児童・生徒は年間3千人以上。(左表)毎年繰り返し学ぶことで、命を救う意識と知識が児童・生徒に浸透してきています。いざというときの命綱の握り方を、久慈の子どもたちは知っているのです。

久慈管内・AEDと心肺蘇生法普及事業の受講者数

年	小学	中学	高校	計
17	56	72	200	328人
18	1,438	2,029	1,005	4,472人
19	1,211	1,834	322	3,367人
20	1,182	1,834	396	3,412人
21	1,182	1,330	276	2,788人

※17年はモデル校のみ実施。21年の受講者数減は、新型インフルエンザによる



命の大切さを教えたかった 佐藤 篤先生 (夏井小)

校内の事故は身近な問題です。最新救命技術を教わるのは良い機会。子どもたちにも命の大切さを教えていきたいです。



責任感を感じます！ 久保泰平くん (久慈高3年)

心肺蘇生法には自信があるつもりです。繰り返し教わったので、命を助けることに使命感や責任感を感じます。

学校に広がる意識



助けてあげたい！ 類瀬雅俊くん (山形中3年)

命を救う心肺蘇生法は大事。手順は頭に入っています。倒れた人がいたら、勉強を生かして助けてあげたいです。



大事な勉強です！ 中川優雅くん (小袖小5年)

人を助けるための心肺蘇生法は、大事な勉強です。あせらずに行動して、倒れた人を助けてあげたいです。



真剣な表情で消防署員から心肺蘇生法を学ぶ教職員